

介護サービスが使われないのはなぜか

中川 雅夫 議員



【問】介護保険特別会計のサービス支出が激減している。原因は何か。

【福祉部長】現段階での分析は難しい。

【問】必要な介護サービスの計画を基にして建てた予算だ。この予算が余るのは大問題だ。介護保険会計には1億円の埋蔵金もある。

【福祉部長】繰越金があることは認識している。

【問】1割の利用料負担が重くて介護サービスが利用できるのか。利用料を見直してはどうか。

【福祉部長】負担軽減策もあり、介護サービスが受けられないという認識はしていない。

町内業者の支援策は

【問】同趣旨の質問の議員が3人もいて各々が支援策の必要性を求めた。法律の制約があるというが小額の契約なら必ずしも入札の必要はない。見積先を町内業者にしぼつ

て選定する方法はどこでも導入していることだ。なぜやらないのか。

【総務部長】そのような町内業者リストを作っている例は承知している。研究させてほしい。

放課後児童クラブ

【問】いこまい館などに充実した学童保育所を開設して、児童館の放課後児童クラブは短縮し、無料に戻してはどうか。

【福祉部長】クラブの利用時間は親の要望をいれて19時までにした。利用者も多く、子どもを1カ所に集めて預かることは考えていない。



放課後児童クラブの個人棚（兵庫児童館）

「ありがとう」は今までもやっているはず 行政経営企業の行動規準として甘くないか

山口 洋子 議員



【問】施政方針の中で、自治体は1つの行政経営企業として生まれ変わる必要がある、「町民に“ありがとう”と言ってもらえる仕事をする」ことを平成22年の行政経営企業の行動規準とした」とあるが、今までもやっていることであり、行政経営基準としては甘くないか。

【町長】ありがとうは動作の基本。古くない。

【問】学区の見直し等を検討して、空き教室に小規模多機能施設などの運用を考えてはどうか。

【教育長】学区の見直しの考えはない。

農業学校について

【問】受講者には町住民に還元義務があるか。

【経済建設部長】義務とは捉えていない。町からの期待としては、卒業後も継続することで耕作放棄地の解消になり、農業センター等に農作物を出してもらえば、結果とし

て町、住民に還元することになると考える。

「王滝村」を訪ねる事業

【問】木曽川上流の水源の緑を訪ねるツアーの具体策は。

【生活部長】自治体間交流事業として小学生の親子が王滝村を訪ね、現地での体験や学習から水の恵みを学ぶ「水源の緑を訪ねるツアー」を企画している。参加人数は親子で40人ほどを予定。スケジュールは6月頃に募集し、8月上旬の土日で実施を予定。内容は牧尾ダム施設見学、枝打ち体験など。具体的な実施内容等は検討中である。



王滝村から見た御嶽山